

農学研究科

教育プログラムの名称：生物資源学専攻

授与する学位の名称：修士

【修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)】

山形大学大学院及び大学院農学研究科の修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)のもと、教育プログラム（生物資源学専攻・修士課程）では、以下のような知識・態度・能力を獲得した学生に「修士」の学位を授与します。

1. 生物資源に関する諸分野における学術上の高度な概念や原理を体系的に理解している。
2. 専門職従事者としての倫理観と責任感を持ち、コンプライアンス遵守の精神を得ている。
3. 知識・技能を多角的・総合的に捉え、諸課題に対応できる実践的能力を身につけている。
4. 地域社会や国際社会における生命資源に関わる諸問題に対し、課題を明確に抽出・探求・研究ができる。
5. その探求結果に対して専門知識と創造性を駆使して解決策を見だし、必要な事物を開発できる。
6. フロンティアとしての自負を持ち、主体性と創造性を持って研究・開発に向けて行動・実践できる。

【教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)】

山形大学大学院及び大学院農学研究科の教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に沿って、生物資源学専攻（修士課程）の学生が体系的かつ主体的に学習できるように教育課程を編成し、これに従って教育を行います。

1. 高度な専門職従事者としての知識と技能を体得するために、体系的に構成されたカリキュラムを編成する。
2. 演習科目では自主性を持って専門知識と創造性を駆使した解決策を見いだせるように構成されたプログラムを編成する。
3. 修士論文研究においては、専性と独創性を発揮できるよう、また、多面的な考察が可能となるよう、適切な助言・指導を行う。
4. 多様で学際的な知識と技能が身につく初年次教育を展開する。また、必要に応じて、基礎学力の定着を目的とした時間外学習を促す。

5. 自ら課題を発見して、高い倫理性をもって解決方法を探求し、成果を表現する能力を培うため、参加型、対話型の学生主体の演習を複数設ける。
6. 修士論文研究においては、複数指導教員性を導入し、専門性と独創性を形としてまとめられるよう、対面型個別指導性を導入する。
7. 良識ある市民としての学際的な知識、技能、倫理観をもち、主体的・自律的に学習に取り組む姿勢を評価する。
8. 専門職従事者に求められる専門知識と技能、高い倫理観をもち、主体的・自律的に演習に取り組む姿勢を評価する。
9. 修士論文研究においては、課題の設定、専門性、独創性、表現力、問題解決法の探求、について組織的に審査会を行い、評価する。

【入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）】

生物資源学専攻は、食品・応用生命科学コースと植物機能開発学コースの2コースから構成され、各コースと専門分野において、微生物・動物・植物等の生物資源を対象とし、バイオテクノロジー等の先端的手法を駆使した開発・改良と有効利用について専門的な教育・研究を行っています。

また、地域社会や国際社会における諸問題を解決し、人類社会の進歩と福祉に貢献できる独創的な科学技術開発を担う研究者や技術者を養成するため、各指導教員による個別指導を軸としたきめ細やかなプログラムを展開しています。

生物資源学専攻の求める学生像は以下のとおりです。

◆求める学生像

- ・生命現象の解明、バイオテクノロジーなどの新技術や応用に興味のある人
- ・有用な生物資源の開発と改良、生物による環境浄化、食物の品質保持や健康機能性の解明やその応用に興味のある人
- ・探求心を持ち、物事に自発的、積極的に取り組む人

◆入学者選抜の基本方針

上記の【求める学生像】で示す能力等を有する人を多面的・総合的に評価するため、以下の方法により選抜します。

- (1) 一般入試（筆記試験（専門科目）、口頭試問と志願者から提出された出身大学で作成された成績証明書等を総合して判定）
- (2) 社会人入試（筆記試験（小論文）、口頭試問と志願者から提出された出身大学で作成された成績証明書、志望理由書、研究計画書、研究業績概

要書を総合して判定)

- (3) 外国人留学生入試(筆記試験(専門科目)、口頭試問と志願者から提出された書類を総合して判定)
- (4) 外国人留学生推薦入試(志願者から提出された書類を総合して判定)
- (5) 推薦入試(志願者から提出された出身大学の成績証明書、推薦書、志望理由書等の書類を参考に実施する口頭試問の結果により判定)